

# 史跡大御堂廃寺跡 保存活用計画の概要

編集・発行：倉吉市教育委員会事務局  
発行年：令和2年3月  
お問い合わせ先：倉吉市教育委員会事務局文化財課  
〒682-8611 鳥取県倉吉市葵町722  
電話：0858-22-4119  
FAX：0858-22-2303

## 計画策定の目的と沿革

大御堂廃寺跡は倉吉市駄経寺町2丁目に所在する山陰を代表する最古級の本格的な古代寺院跡であり、平成13年に国史跡に指定された。現在は、倉吉交流プラザ・鳥取県立倉吉未来中心等で構成される文化複合施設「倉吉パークスクエア」の一角を占める都市公園として多目的に活用されている。

令和6年度に開館する鳥取県立美術館及び倉吉パークスクエア内の各施設と連携しながら、史跡の保存と整備、活用を通じて歴史的価値を次世代へ確実に継承するため計画を策定するものである。

## 史跡の価値

### 本質的価値

- 山陰最古級の古代中核寺院
- 仏教文化の香る遺物・古代の生活環境を現す遺物
- 古墳時代から古代への変遷を読み取れる古墳・古代官道の立地

### 新たな価値評価の視点

- 当時の姿を今に伝える地形と景観
- 史跡指定地の南側には中心伽藍（寺院の主要建物群）が残り、東側には関連遺跡が広がる可能性
- 久米郡衙（郡を治める役所）や伯耆国庁との関係が深い寺院
- 県立美術館開館による新たな付加価値の創出

## 計画の対象範囲

当計画の対象範囲は、史跡指定地及び南門等主要な建物の遺構が存在する可能性の高い指定地南隣接地の駄経寺町字五反田・字松ヶ坪地区、関連施設の推定される東隣接地の上灘町字石ヶ坪・字藤田地区とする。



鬼瓦



銅製獣頭



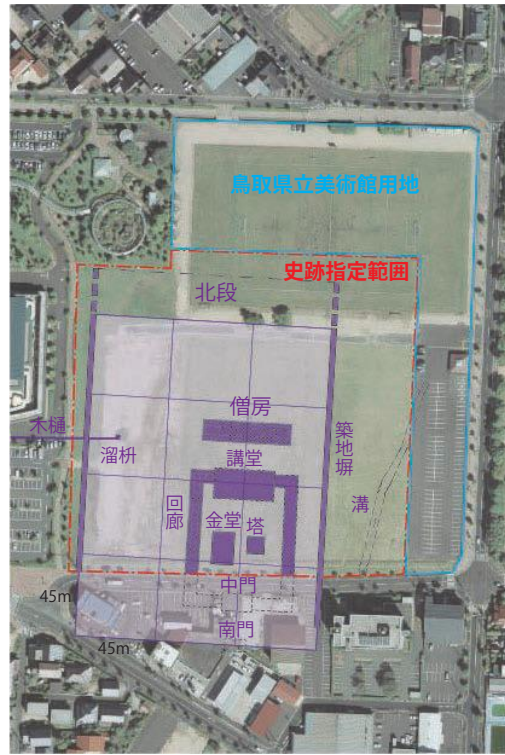
銅製匙

## 大綱・基本方針

- 古代伯耆国における文化の拠点であった寺院の姿を今に伝える大御堂廃寺跡を、確実に守り次世代へ継承する。
- 史跡の調査結果に基づいた価値と魅力を積極的に発信し、地域住民や来訪者が憩い学ぶ場とする。
- 県立美術館を含む周辺施設・市内外の史跡等、互いの価値を引き出し高め合える整備と活用を進める。
- 倉吉市の歴史と文化のまちづくり、観光・交流の場とする。
- あらゆる人々が関わり、愛着を持ちながら、「つくり育てていく」史跡とする。

## ◆運営・体制整備の方向性

- 史跡の保存・管理を確実にし、適切な公開・活用、そのための整備、調査研究を進めるため専門職員等の人員確保も含め、文化財課としての管理運営体制を整える。
- 市の教育・観光・建設など様々な部局と緊密な連携を図り、効果的な保存・活用及び整備となるよう倉吉市として一体となって取り組む。
- 市民、地元団体、歴史文化・観光などの関係団体と協働により保存・活用の推進に努める。
- 様々な場面において、県立美術館をはじめとする倉吉パークスクエア各施設との相乗効果を十分に発揮できるように、連携体制を整えておく。
- 国及び県の関係部署との緊密な連絡、連携を取り共通認識を持ち、事業を円滑に進めていく。



空中写真と遺構配置図

## 現状と課題

### ◆保存・管理の課題 (主なもの)

- これまでの発掘調査は限られた範囲であったため、中門や南門などの主要遺構の位置が未だに解明されていない。
- 現在の史跡指定範囲に、寺域全体（南側）が含まれていない。
- 地下遺構の保護措置をとりながら歴史的価値のある史跡としての周知が必要。
- 大量の出土遺物を保管する場所が不足している。
- 除草等を利用者に協力を求めるような体制が整っていない。

### ◆活用の課題 (主なもの)

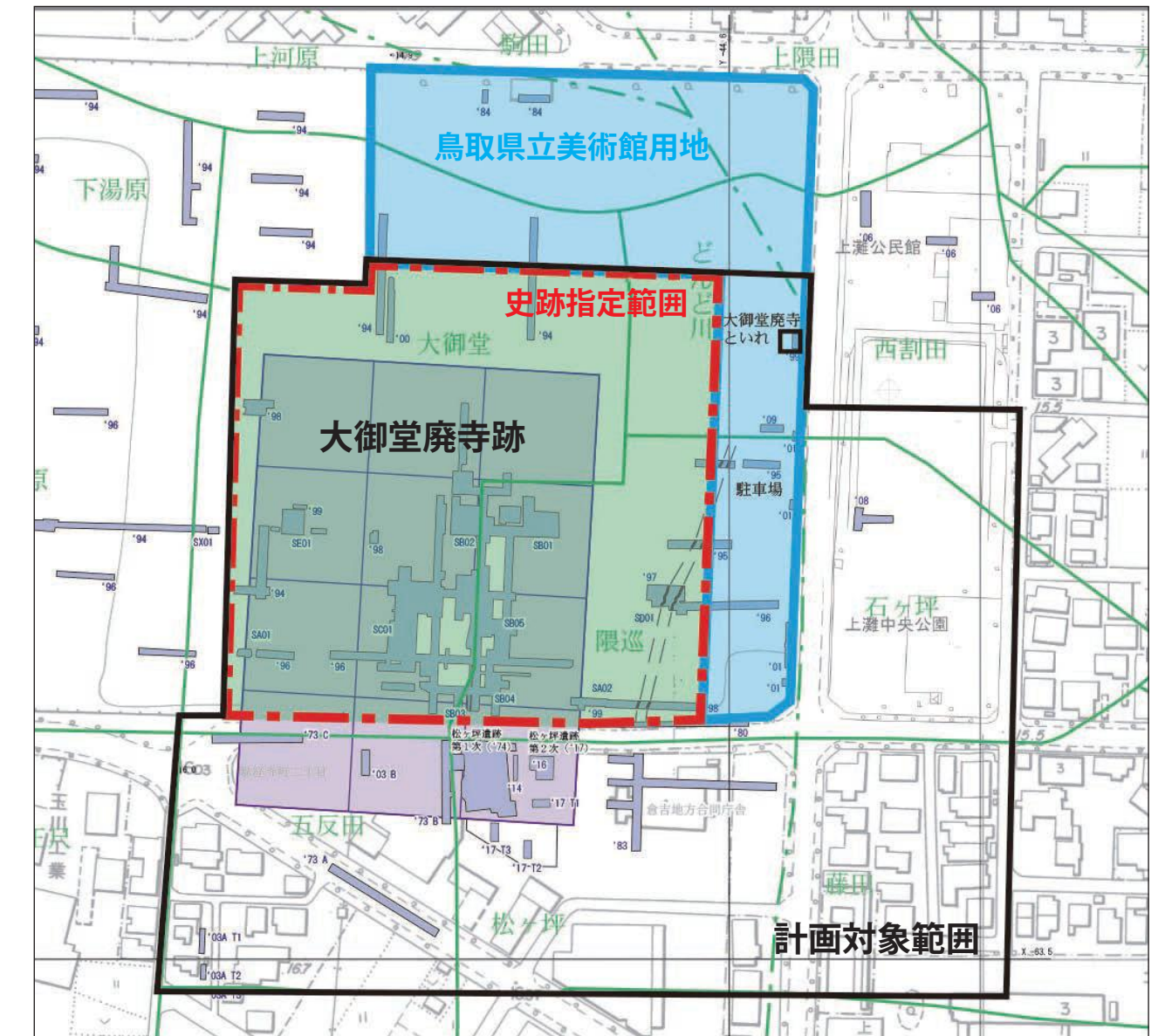
- 現状は芝生広場であり、遺跡の内容を明確にした表示がないため、史跡として活用しにくい。
- 活用を促進する積極的な情報発信をしていない。
- 史跡解説の人材が不足している。
- 出土遺物の多くは、収蔵庫に保管されたままの状態であり、活用されていない。
- 周辺の歴史文化遺産、施設等との相互活用につながる連携がとれていない。

### ◆整備の課題 (主なもの)

- 遺構が地下に埋蔵された状態であり、視覚的にイメージできる遺構表示がない。
- あらゆる人々が理解しやすいガイダンス施設展示、解説板となっていない。
- 暫定的な整備である上、築堤・旗掲揚ポールなどの史跡の価値を有しない構造物が史跡指定地内に存在している。
- 多くの人が憩う場として必要なベンチ、四阿等の便益施設が不足している。
- 隣接地に設置される県立美術館との活用の相乗効果を得ることができるよう、一体的な整備が必要である。

### ◆運営・体制の課題 (主なもの)

- 市の内部組織（企画・都市計画・公園・観光等の関係部局）の連携が十分に取れているとは言えない。
- 史跡に関する専門人員が不足しており、継続的な調査・研究、また活用事業（学校、地域における歴史教育など）を進めにくい状況である。
- 利用者をはじめ、市民、学校、地域組織、県立美術館をはじめとする周辺施設の設置・管理者など、多様な組織と連携する体制が整っていない。



計画対象範囲図





史跡指定範囲と発掘調査位置図

## ◆保存・管理の方向性

- 大御堂廃寺跡の本質的価値を損なうことのないように、周辺の関連遺跡と環境も含めて一体的に適切な保存・管理及び活用を行なう。
- 史跡地内において、調査研究や整備上、必要な場合においては目的を明確にした上で**必要な発掘調査**を行なうものとする。
- 史跡が内包する多様な歴史的事実等を明確に把握するため、かつ保存を確実にするための**調査研究を継続的に進める**。

## ◆整備の方向性

- 史跡の保存管理及び活用を確実に推進していくため、**周辺環境との調和**を考慮しながら適切かつ計画的に進める。
- 大御堂廃寺跡の歴史的价值を確実に伝えるため、**遺構表示及びガイダンス**は誰もが理解しやすく、かつ親しみやすいものとする。
- 多くの人々が関わっていける「**つくり育てていく**」持続的な整備を取り入れる。
- 県立美術館**と大御堂廃寺跡との**一体感**を意識しながら、利便性を考慮した動線や回遊性の向上を図る。
- 多くの人々が集う場として安全性を確保した施設整備を進める。

## ◆活用の方向性

- 史跡を**歴史教育**や地域住民の**憩いの場**として史跡の保存と両立させながら、多面的な活用を進める。
- 現地及びインターネット上における**ガイダンス機能を充実**させ、大御堂廃寺跡の歴史文化遺産としての本質的価値及びその魅力について、地域住民や来訪者等あらゆる世代に向け、興味関心を高めることができるような**分かりやすい発信**を行なう。
- 大御堂廃寺跡の**歴史的な価値を体験**できるような機会を設け、市民や来訪者の史跡への理解を深める。
- 県立美術館**と大御堂廃寺跡との互いに意識し合った企画・イベントなどを通じ、**活用の相乗効果**を生み出していく。
- 市内各所に点在する歴史文化遺産や観光資源と有機的に結び付け、ネットワーク化し倉吉市の**観光・交流の場**となる活用を行う。

## ◆施策の実施計画

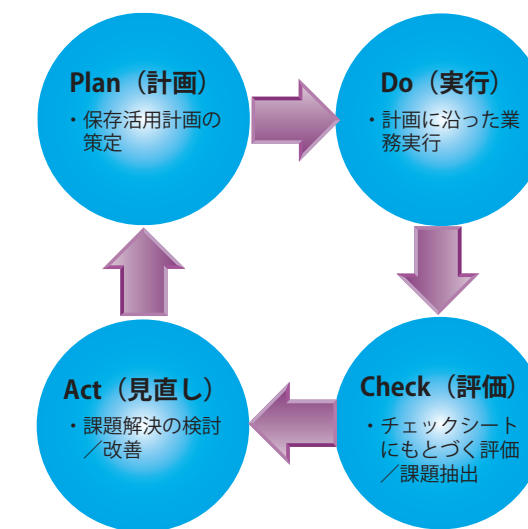
平成30年度～令和5年度までの6年間で第1期事業期、令和6年度以降を第2期事業期として整備をする。

実施項目	第1期						第2期	
	平成30年度(2018)	令和元年度(2019)	令和2年度(2020)	令和3年度(2021)	令和4年度(2022)	令和5年度(2023)	令和6年度以降(2024)	
史跡保存活用計画の策定	←→						PDCAサイクルを検証し、5～10年で見直しを行う	
保存・管理	調査・研究	←→						
	指定拡大に向けた取組						←→	
活用	←→						←→	
整備	整備基本計画(基本設計)の策定		←→					
	実施設計				←→			
	整備工事の実施					←→		
運営・体制							←→	
	管理・運営体制					←→		

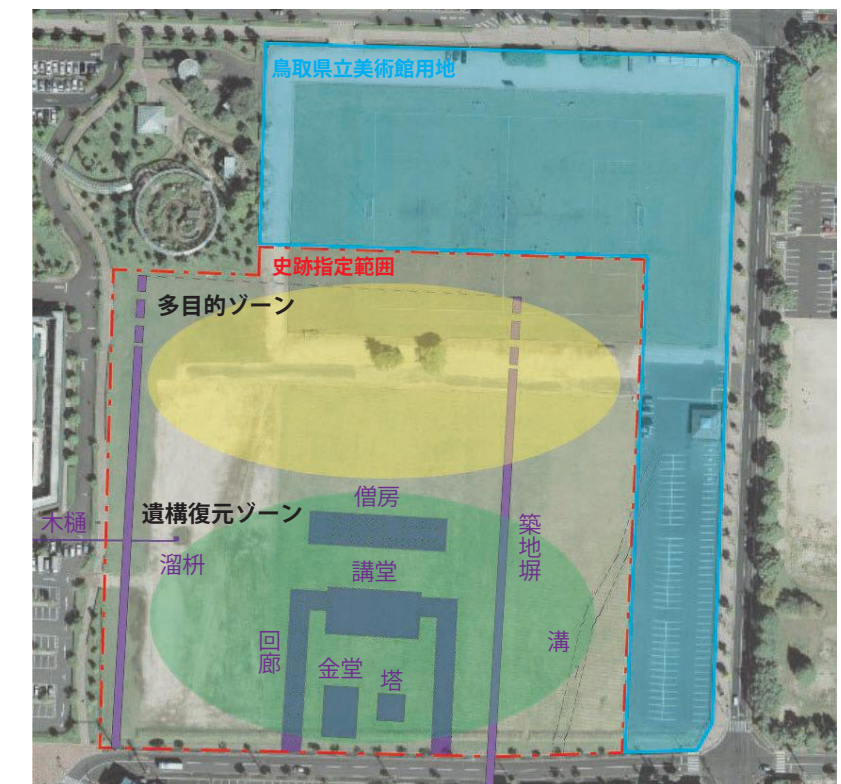
令和6年度 県立美術館開館

## ◆経過観察

計画を実施するにあたっては、定期的な経過観察や実施内容の見直しを行なう必要がある。この経過観察は、委員会等を設置してチェックシート等を作成し、市教育委員会文化財課が中心となって全体的な取りまとめを行ない、各部署と連携しながら活用していく。



経過観察イメージ図



史跡大御堂廃寺跡整備イメージ図